

作家生活10周年記念作品

『透明カメレオン』

(KADOKAWA 角川書店)



発売中!

驚きと感動のラストが心ふるわす、
無敵のエンタテインメント小説!

冴えない容姿と“特殊”な声を持つラジオのパーソナリティの恭太郎はある雨の日、行きつけのバーで奇妙な女の子に出会う。ひょんなことから彼女の企てた殺害計画に参加することになる恭太郎だったが――。

●ISBN: 978-4-04-101428-8 ●定価 本体1,700円

道尾秀介本人による
おススメガイド

道尾秀介

作家生活10周年記念

応援フリーパーパー

ご自由にお持ち下さい

無料

発行: 道尾秀介10周年祭応援委員会
協力: 道尾秀介 KADOKAWA

道尾秀介略歴

1975年 東京都出身

2004年 『背の眼』で第5回ホラーサスペンス大賞特別賞受賞を受賞しデビュー。

2007年 『シャドウ』で第7回本格ミステリ大賞(小説部門)受賞。

2008年 『このミステリーがすごい!』2009年版で作家別投票第1位に選ばれる。

2009年 『カラスの親指』で第62回日本推理作家協会賞(長編及び連作短編集部門)受賞。

2010年 『龍神の雨』で第12回大藪春彦賞受賞。

『光媒の花』で第23回山本周五郎賞受賞。

2011年 『月と蟹』で第144回直木賞受賞。

新潮文庫『向日葵の咲かない夏』が累計100万部を突破。

2015年 1月31日作家生活10周年記念作品『透明カメレオン』発売。

デビューして十年。

十歳は、僕がよく書く

子供の年齢です。

多感で、大人も成長を

迎える時期です。

素敵が大人を目指して十年。

道尾秀介

■道尾秀介が選ぶおススメ作品ガイド

①自分の作品を読んだことのない人に自分が薦める作品

『カラスの親指』（講談社文庫）

今回の『透明カメレオン』と並んで、僕の作品の中ではダントツの門戸の広さを持つているので、たくさんの人にお楽しみいただけののではないでしょうか。詐欺師集団が、敵グループに、あるいは互いに、あるいは読者に対して大ペテンを仕掛けます。ちなみに映画版では、「あまちゃん」で有名になる直前の能年玲奈さんが大活躍してくれています。

②男性に勧める作品

『光』（光文社単行本）

冒険・謎・恋・洞窟・怪談・伝説の大魚・悪党との闘いなど、かつて男の子だった人が夢中になれる要素が満載で、男性ファンが多くいてくれる一冊です。冒頭にある小説の引用文に、じつはある秘密を仕込んであり、それはべつに読者が気づかなくてもいいものなのですが、ときおり気づいてくれる人がいて、非常に嬉しいです。

③女性に勧める作品

『水の枢』（講談社文庫）

女性からの支持が多いので選ばせていただきました。少年少女の胸にある硝子のように繊細な感情、年老いた人が持つあたたかさや孤独、温泉街の空気、老舗旅館が抱える疲弊、そういった、目に見えないものたちが互いに絡み合い、物語全体が動いていきます。目に見えないものを見るのは、女性のほうが得意だったりするのででしょうか。

④トリック（仕掛け）にこだわった作品

『龍神の雨』（新潮文庫）

文庫版の解説で橋本満輝氏が書いてくれているように、この本は読了後に作中の要所要所を振り返ること、それまで見えていなかった、ある大きな一枚の絵が現れる仕掛けになっています。単行本で刊行した際、その絵の存在に気づいてくれた人が意外と少なかったので、文庫版の解説は有り難かったです。

道尾秀介に外れなし！各種受賞作の紹介とエピソード

『背の眼』（幻冬舎文庫）第5回ホラーサスペンス大賞特別賞
初めて書いた長編小説だったので、「ただのマグレかもしれない」という思いがあり、喜びよりも不安のほうが強い受賞でした。

『シャドウ』（創元推理文庫）第7回本格ミステリ大賞
これはプロになって初めての賞です。自分は賞をもらえるような作家だなんて思っていなかったので、驚きの受賞でした。

『カラスの親指』（講談社文庫）第62回日本推理作家協会賞
日本推理作家協会の会合には有名なベテラン作家さんが大勢集まり、この賞の選考委員も直系の大先輩作家ばかりで、緊張の受賞でした。

『龍神の雨』（新潮文庫）第12回大藪春彦賞
プロになってからいただいた賞で、実はこれがいちばん賞金が多かったりします。僕の回はもう一人の作家さんとのダブル受賞だったので、賞金も半分になったのですが、それでもまだまだ他の賞より多く、うはうはの受賞でした。

『光媒の花』（集英社文庫）第23回山本周五郎賞
いくつもの短編小説が最終的に長編小説となり、短編でも長編でもつくれない大きな世界をつくりあげる、というスタイルを最初に試みた一冊です。その成功を証明してくれたようで、とても刺激的な受賞でした。

『月と蟹』（文春文庫）第144回直木賞
この半年前から「情熱大陸」が密着していて、明らかに道尾秀介の「直木賞受賞」を番組のフィナーレに持っていきたがっているようだったので、もし落選したら彼らに申し訳ないなあという気持ちがあり、安堵の受賞でした。

作家生活10年目を迎えて一言。

作家になって丸10年が経ちました。
10歳は、僕がよく書く子供の年齢です。多感で、大きな成長を迎える時期です。これまで物語の中で何度も10歳の少年少女を描いてきて、そのことをよく知っているからこそ、今後の自分が楽しみでもあり、不安でもあります。
ただ、一つだけお約束できます。これまで応援してくれた読者の皆様、本当に買ってよかったと思える本、書店の皆様が、本当に売ってよかったと思える本を、これから書き続けます。